

平和テクニカ

LED向け切断機に注力

11年度売上高 42%増、20億円

平和テクニカ(東京都中央区、小池達夫社長、03・3249・0981)は、非鉄の切断システム販売を強化し、新たな事業の柱に育成する。青色の発光ダイオード(LED)原料である硬

質脆性材向け切断機「フラインカットSP-310型ZⅢタイプII写真」を拡販。これにより同社の2011年度の年商を08年度比42%増の約20億円に拡大する考えだ。

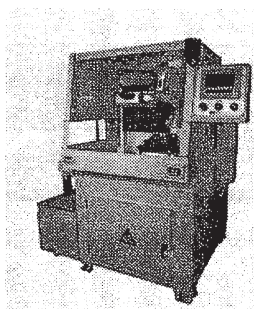
切断時間は10分の1以下に短縮できた。

このため小ロット品の切断や、青色LEDの原料

料となるサファイア単結晶の両端切断などに適している。価格はシステムで約500万円。対象顧客はサファイアガラスメーカーなどで、同社のフラインカット営業部(神奈川県座間市)でのテストカットやコンサルティ

ングを通じて販売につなげる。初年度は20システムの販売を目指す。平和テクニカは砥石・精密切断機メーカー。砥石切断システム部門の売上高のうち、金属系統の切断関連が7割を占める。事業多角化で、硬質

脆性材向け製品を開発。青色LEDから作られる白色LEDは一般照明用の光源として期待されており、2015年には家庭用従来光源のLED照明への転換が進むといわれ、同社はこうした需要を取り込む。



310型ZⅢタイプIIは、レジンノイド砥石「ウィルナス」を用いた切断システム。競合他社の装置による現行の切断方法と比べ、コンパクトで

機械・ロボット